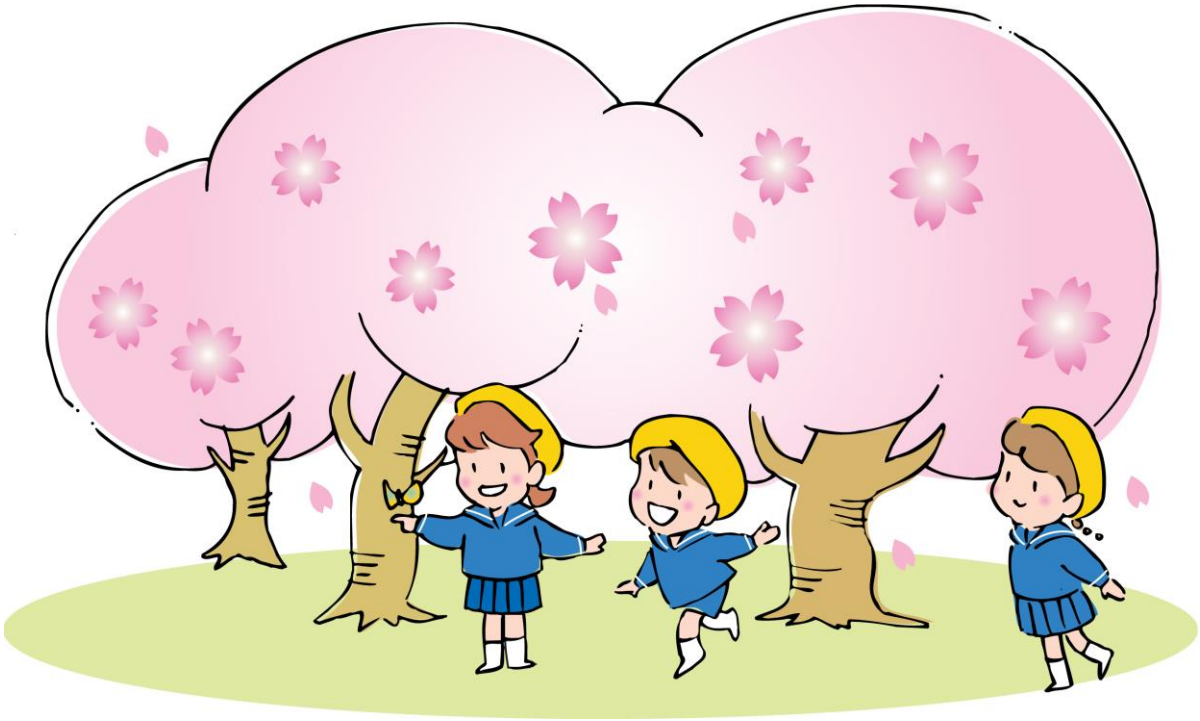
事　業　報　告　書

令和４年度

令和４年４月　１日より
令和５年３月３１日まで



学校法人　常盤学園

事　業　計　画　書

令和４年度

法人の概要　常盤学園

①名　称　：学校法人　常盤学園

②所在地等：奈良県橿原市常盤町３３２番地の５
電話番号：０７４４‐２９‐１０２０
ＦＡＸ：０７４４‐２２‐７８２８

③設置する学校：　常盤幼稚園
定　員：３００名　　実　員：１２３名

④役員の状況
理事長：吉 川　隆 博
理　事：　６名　　監　事：　２名　　評議員：１３名

⑤教職員の状況
園　長：１名　　副園長：１名　　教　員：８名
職　員：２名　　園　医：２名

保育時間・保育時間等　（常盤幼稚園）

月曜　～　金曜　：午前１０時～午後２時（お迎えは３時まで）
第１・３・５土曜：午前１０時～１１時　（お迎えは１２時まで）
第２　・　４土曜　：休　園
給　　食　　：月曜～土曜　牛乳・味噌汁・米飯の弁当給食を実施
◇園内の調理施設で、産地の明確な食材を使用し安心･安全な給食を提供します。

保育料（給食・教材費・施設設備費を含む）
４・５歳児　３５，０００円／月
３歳児　　３６，０００円／月
園バス維持費：４，５００円／月　但し、８月を除く

④入園時の費用
入園料：３０,０００円　教育充実費：２０,０００円（4歳児：１０，０００円）

事業の概要

教育理念

＊目をみて挨拶ができる子どもに育てよう

挨拶は心の窓と言われます。「おはよう」「さようなら」からはじまり「ありがとう」「ごめんなさい」、これらの言葉は人との距離を近くする言葉です。自分の思いを人に伝え、人のことを思いやる気持ちを育てます。

＊食育を通して味覚を育み、ゆっくり考えられる子どもに育てよう

辛酸甘苦味、そして第５の味と言われる旨味は、味覚だけでなく心を育てます。食育を通してたくましい体と、落ち着いて考えられる心を育てます。

＊人間関係がつくれる子どもに育てよう

ものは分け合うということ、ものには順番があるということを、遊びや生活の場を通して学んでいきます。
時には順番やおもちゃの貸し借りでぶつかり合うこともあるでしょう。仲直りしたときの嬉しい気持ち、順番やものの貸し借りがうまくいかない悔しい気持ちを経験することで、どうしたら友だちと仲良く遊ぶことができるのかを工夫するようになっていきます。その経験が人の気持ちを考えることにもつながります。先生はその仲立ちとなれるようきめ細やかに見守ります。

この３点を基本として、様々な体験や遊びを取り入れながら健やかに成長できるよう取り組みます。そして様々な遊びや体験を通してからだの軸（体幹）を育み、人と関わる力をそだてます。

４年度の主な事業の実施状況

４月	入園式　始業式　避難訓練（以降毎月実施）
５月	健康診断　遠足
６月	歯科検診
７月	七夕　吉野山・林間活動　　終業式
８月	夏休み　夏祭り会
９月	始業式　お月見会　運動会発表会
１０月	お月見会　遠足　交通安全教室　お楽しみ会
１１月	七五三詣り　どんぐり拾い　作品展　健康診断
１２月	クリスマス会　終業式　冬休み
１月	個人懇談
２月	節分会　発表会
３月	お別れ会　卒園式　終了式　春休み

その他の主な事業の目的・計画

「１０の姿」の育成

保育要領に５歳児の終わりまでに育ってほしい「１０の姿」として下記の事項が挙げられています。

１、健康な心と体
２、自立心
３、協同性
４、道徳性、規範意識の芽生え
５、社会生活との関わり
６、思考力の芽生え
７、自然との関わり・生命尊重
８、数量・図形、文字等への関心・感覚
９、言葉による伝え合い
１０、豊かな感性と表現

「１０姿」の視点は、小学校から園児を知る時の手掛かりでもあります。個々の遊びや活動がどの領域に関わるのか考えながら小学校へのスムーズな接続を視野に入れ日々の保育に取り組みました。

安全性を高める環境づくり

今年度も新型コロナウイルス感染症予防を危機管理の一番として取り組みました。
新しく導入した送迎バスの抗菌コート、手洗い場、トイレをはじめ施設の除菌・消毒を徹底して行い、感染予防につとめました。
また保護者と園が同じ視線で予防できるよう、感染症対策に関する情報や園での状況などをタイムリーにこまめなメール配信を行いました。
安全管理においては避難経路や避難場所、注意点が理解できるよう定期的に避難訓練を実施しました。建物、設備、園庭遊具は専門業者の定期的な点検を実施し、経年劣化等がみられたものはすぐ改修を行い、遊具等がよりよい状態で使用できるようつとめました。
日々の遊具点検では視診や触診も取り入れ、小さな変化「おやっ？！」の報告が上がるよう研修を繰り返しました。
他園で起きたバスの事案を受け、車内の安全確認をさらに一段のチェックがなされるようマニュアルの改訂も行いました。

インシデントの除去

日々の遊びや活動の中に危険につながる要因・インシデントがチェックできるよう、日常的にヒヤリハット報告を励行しました。ヒヤリハット委員を設け出された報告を分析、「今週のヒヤリ」と題して危機感の共有と安全管理につとめました。

職員全体の危機感への感性を育てることも「ヒヤリハット報告」の重要な目的とし、重要な報告や数多くの報告を出した職員を表彰する等して意識の向上をはかりました。

保育力の向上と情報の共有（研修で職員のスキルアップ）

経験を積んだ保育士からの指導助言による園内研修に加え、外部研修にも積極的に参加して保育力の向上を目指しました。

４年度も感染症対策で Zoom での研修会が多く、時間の都合をつけて積極的に受講することができました。

より良い保育、資質向上を図るため、幼児教育研究機構等の研修会にも積極的に参加できるよう配慮しました。

５年度以降には活発な意見が交わせるような参加型の研修会が再開されることを願っています。

子どもたちとの生活においては「前向きな声がけ」を大切した方向性を示す肯定的な言葉がけに重点をおいてきました。

特に年長５歳児では子どもたちの発想を大切にし、友だちと協同して一つのことができるよう時間を取りました。

話し合ったり、意見を出し合ったりする中で目標を達成することで、子どもたち一人ひとりが達成感や満足感、ひいては自己肯定感を高められたと感じています。

子どもの成長を保護者と共有するために、日々の保育（遊び・活動など）を見える化する「ドキュメンテーション」に取り組みました。

送迎の際にみられる場所に掲示し「園での様子がよくわかる」と好評でした。園生活の見える化により園に対する理解も深めることができました。家庭での会話や子どもとの関わり方に参考になったという感想も寄せられました。

臨床心理士や支援センターとの連携

橿原市支援センターの指導員、臨床心理士の先生と連携を取り、子どものからだと心の育成を支えるよう工夫しました。、子どもたちそれぞれの個性や状況にあわせて支援センターの協力を頂きながら進めました。
そのためには保護者との連携が不可欠です。保護者と信頼の絆が結べるよう、ゆっくり回を重ねて話し合う時間を大切にしました。

設備等の充実

長年整備を重ねて使用してきた送迎バスの入れ替えを行いました。
長らく日産自動車のマイクロバス・シビリアンを選定してきましたが、今回はトヨタのコースターを選定しました。
世界的な半導体不足、サプライチェーンの混乱、部品不足などのため受注が停止される前に契約ができ、園児の送迎に支障をきたすことなく車両の入れ替えが完了しました。